

東北グローバルセミナー実行委員会の活動 ～国連『持続可能な開発のための教育の10年』人材育成事業～

小金澤孝昭*

Report on UN Education for Sustainable Development

Takaaki KOGANEZAWA

2005年1月からはじまる国連の「持続可能な開発のための教育の10年」(ESD)に向けて、東北からこの事業の啓蒙・普及と人材育成を目的にプロジェクトが2003年6月から開始された。この事業は仙台いぐね研究会が地球環境基金の助成を受けたものであるが、運営に当たっては実行委員会をつくることとなった。この実行委員会に宮城教育大学からは筆者が環境教育実践研究センターの運営委員会で承認され、この運営に当たった。他の実行委員は、仙台市環境局、宮城県環境政策課、河北新報社、ならびにNPOから構成されている。プロジェクトは2003年度ならびに2004年度も継続された。本報告は、2004年度に開催された東北グローバルセミナーの内容を一覧表(表1)にして報告する。またこのESDについては、以下のように補足説明を行うことにした。

国連の「持続可能な開発のための教育の10年」(ESD)は、持続可能な社会を創って行くために教育の役割を見直し、教育の力で「持続可能な社会」を地域で、世界で実践していこうというものである。この事業を考える時に生まれてくる素朴な疑問は、持続可能な社会(開発)とは何だろうか?それは地域や国によって様々なのだろうかから、共通課題はあるのかということと、教育といっても通常の教育と持続可能な社会のための教育とどこが違うのだろうかという2つことが浮かんでくる。つまり、「教育」Educationと「持続可能な社会」Sustainable Developmentのそれぞれの意味である。まず、持続可能な社会とは、何か?それは、2002年にヨハネスブルグの「開発と環境サミット」でも議論されてきた「地域」の課題でもあり、

「地球」の課題である環境保全、人権の確立、貧困撲滅(経済的公正)などを実現できる社会である。これらの問題は、個々の地域、国の課題であるが、相互に結びついていて、地球全体で取り組まないと解決できない性格であり、地球のどこかでこれらの課題が放置されると地球全体に影響を及ぼすといった性格を持っている。1つの地域の環境保全は、その国の環境を保全し、地球の環境を保全していく。人権が尊重され、民主主義が確立する国が増えることによって戦争や紛争を解決する糸口を見つけることが可能である。また途上国の貧困は、途上国と先進国の経済格差を背景に深刻さを強めていく。このように「持続可能な社会」実現の課題は多岐にわたり、解決の糸口を探すのは、非常に難しいものばかりである。しかし、一步一步具体的に実践していけば解決可能な課題でもある。まずは、身近な地域でこれらの課題の中で、取り組めるものから取り組むことが大事であり、個人や市民団体、行政・企業が相互に連携して取り組めばその力は大規模なものになっていく。「持続可能な社会」は、地球的課題を地域から、市民、行政、企業が連携して創ることに他ならないのである。

また、ここで問われる教育は、識字率を高めたり、基礎学力を身につける学校教育での学力を意味するものではなく。それらの基礎学力を踏まえて、持続可能な社会を創るために、①地球的な課題を認識できる能力、②地域からできる地球的課題を見つける能力、③市民・行政・企業がどのように連携していけばいいかを探し出せる能力を育てていくことである。もちろん、これらの教育は、学校と地域社会の両方の場で実践さ

*宮城教育大学教育学部

れていく地域の教育である。その意味で、SD「持続可能な社会」のためのE「教育」は、持続可能な社会のための地球的課題を実践でき、そのための教育を学校

で、地域社会で、実践できる具体的な「地域拠点」を必要としているのである。

表1. 東北グローバルセミナーの内容

国連『持続可能な開発のための教育の10年』関連事業

環境教育・環境学習を進める地球人・人材育成プログラム「東北グローバルセミナー」

2004年度1-5回セミナー実施結果(敬称略・発表順・氏名横のカッコ内は所属)

		第I部	第II部
1	6月26日(土) 仙台市役所上杉分庁舎 60名参加	●東北グローバルセミナーの 趣旨説明	○「国連・教育の10年」講習 「持続可能な開発のための教育(ESD)を巡る最近の国際的動向」 講師:鈴木克徳(国連大学高等研究所上席客員研究員)
	関連研修イベント	国内体験学習プログラム 7月31日 いぐねの学校	約100名参加
	関連海外研修	中国内モンゴルエコツアー研修 8月3日~10日 研修先:中国内モンゴル自治区呼和浩特市(フフホト)周辺 受入先:中国内モンゴル師範大学	教員2名派遣、計20名参加
2	8月21日(土) 仙台市役所 上杉分庁舎 45名参加	○「国連・教育の10年」講習 教育の10年と環境教育 基調報告 廣野良吉 報告1:大村浩志(文部科学省) 報告2:渋谷晃太郎(環境省)	●環境教育の実践パネルディスカッション(体験学習) 報告1:奥平大和(大郷町立粕川小教諭) 報告2:亀崎英治(仙台市立北六番丁小教諭) 報告3:堀川邦雄(長命館公園サポーターズクラブ) 報告4:三浦隆弘(なとり農と自然の学校)
	関連研修イベント	国内体験学習プログラム 9月16日(木)小学生農産物販売イベント 小牛田町立小牛田小学校6年生、2学級:児童37名・教員2名参加	
		11月18日(木)小学生農産物販売イベント 仙台市立北六番丁小学校4年生、2学級:児童40名・教員2名参加	
3	10月9日(土) 仙台市役所 上杉分庁舎 40名参加	○「国連・教育の10年」講習 私たちの暮らし(生活)と環境教育 報告①「仙台グリーン購入世界会議の報告」 細井実(仙台市環境局) ②「循環型社会形成に向けた環境省の取り組み」 吉田元(環境省) ③「開発途上国に対する廃棄物分野の協力について」 雲見昌弘(JICA 東北支部)	●身近な生活における環境への取り組み実践/パネルディスカッション 報告①「社会実験・仙台市スタジアムでのごみ減量活動」 小林幸司・星和佳子 (財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELONI) ②「仙台市のごみ減量・リサイクルの取り組み」 広島紀以子(仙台市環境局リサイクル推進課) ③「省エネルギー授業の実践」 小野寺勝徳(小牛田町立小牛田小教諭) ④「グリーン・コンシューマー育成の取り組み」 佐藤郁子(ACT53仙台)
	関連研修イベント	インド:環境保全型農業研修 10月29日~11月6日 研修先:インド南部 Hyderabad(ハイデラバード) 受入先:NGO:Youth For Action	5名参加
4	11月13日(土) 仙台市役所 上杉分庁舎 43名参加	○「国連・教育の10年」講習・国際シンポジウム 持続可能な環境体験学習・エコツアーについて 報告1:結城登美雄(民俗研究家) 報告2:ジナイダ「Examples of Sustainable Tourism initiatives」(国連大学高等研究所) 報告3:インド研修報告 梶谷貢(NPO 法人環境保全米ネットワーク) 報告4:ナムカイ「Environment Carrying Capacity and Issues of Ecotourism Development」(モンゴル自然環境省)	
	11月14日(日) 伊豆沼ウエット ランド交流館 26名参加	●自然環境保全実践セミナー(体験学習) マガン・白鳥朝立ちの観察 自然環境保全報告・現地討議 報告1:「生物多様性を生かした水鳥と水田の共生」 呉地正行氏(日本雁を保護する会) 報告2:「自然環境保全報告」 小野正之氏(NPO法人サイカネイチャークラブ) 伊豆沼・蕪栗沼の観察	
	関連海外研修	1月16日~21日インド・アーザバードで開催のESF国際会議	5名参加
5	1月29日(土) 河北新報社 77名参加	○国連教育の10年キックオフ・セミナー 基調報告:廣野良吉氏	●分科会別討議・成果報告・今後の活動計画